

## 薔薇園の女王様

「園芸部のえつちな先輩には  
少しだけ棘がある」

ヒロイン..

瀬納 結葉（せのう ゆいは）  
90・58・86 身長160cm 50kg

七森学園に通うお嬢様。

園芸部の3年生で薔薇が  
似合う高貴なお嬢様で、  
一部では薔薇園の女王様と呼ばれている。  
薔薇を愛していて、土いじりが好き。  
クールで面倒見のいい性格だが、  
徐々にSつ気を出していく。

薔薇のようく美しく、

ちよつと棘のある先輩。

飴と鞭で叱つたり脅したり甘やかしたり。

しつかり叱つたり

虐めたりするシーンがありますが、  
あまりきつくなりすぎないように  
お願ひします。

愛情や、落ち込んだりしている後輩が  
すつごく可愛いという感じで、  
可愛がっている感じを  
前面に出して欲しいです。

●はBGVです。

★はSEです。

▼はハートマークです。  
エディターの都合上、  
よろしくお願ひします。

シナリオ…御厨みくり

イラスト…ゆき恵

声優…明日葉よもぎ

ロゴ…フリ

編集…中島駿平・Tonerico

台本化…中島駿平

## ■ ト ラ ッ ク 〇 薔 薇 園 に 男 の 子 が い る だ な ん

て

//正面遠く

「……あら」

★ 足音・近寄り

//正面

「こ ん に ち は。あ な た、新 入 生 よ ね？」

ふふ、可 愛 い お 顔。

珍 し い わ。薔 薇 園 に 男 の 子 が い る な ん て」

「校 内 の こ ん な 外 れ ま で 来 て ど う し た の。」

も も し か し て、迷 子 に な つ た の か し ら？」

大 き な 学 園 だ か ら、わ か り づ ら い わ よ ね。」

よ か つ た ら 案 内 し ま し よ う か？」

「……あ ら。薔 薇 を 見 に 来 た の？」

そ れ な ら ゆ つ く り 見 て 行 つ て 頂 戴」

「確 か に、七 森 学 園 の 薔 薇 園 に は  
美 し い 薔 薇 が 摂 つ て い る わ。」

学 園 祭 で は 薔 薇 園 ツ ア ー が  
す ご く 人 気 な の よ。」

一 度 見 て お き たい 気 持 ち は わ か る わ」

//正面

「そうじやない……？」

……花に興味があるの……？」

「まあ……、『めんなさい、なんだか、驚いちゃつて。

勝手なイメージで申し訳ないわ  
男の子がこういうもの好きって  
珍しいなと思って」

「でも、よく考えたら華道家も庭師も  
男性の方は多いわよね」

「この薔薇園は

庭師の先生ももちろんいらっしゃるけど、  
基本は園芸部で管理しているのよ」

「七森学園の花壇のほとんどは  
園芸部が花を選んで育てているの」

「ああ、まだ名乗っていなかつたわね。

私は園芸部部長、

瀬納結葉（せのうゆいは）よ」

「園芸部はそんなに部員が多くないから、  
私が基本的にいろいろなことを

決めているわ」

「確かに……花を見ると

気持ちが落ち着くわよね」

／＼正面から後ろに顔を振り向きつつ（男の子と同じ景色を見るように）話す  
「この薔薇園の薔薇たちは全て、  
本当に美しいわ」

「私、花って大好きなの。  
美しい花を見ていると、  
嫌なことを忘れられたり……  
荒んだ心も澄んでいつたり  
するわよね……」

／＼そこから正面に顔を戻しつつ（男の子に顔を戻しつつ）話す

「でもね、花だって  
植えたら勝手に綺麗な花を  
咲かせるわけじやないのよ」

「特に……」

この薔薇園に咲いている花たちは、  
品種改良を繰り返して繰り返して  
作り出された薔薇たちなの」

「毎日水をあげて、肥料をあげて、  
剪定（せんてい）して、植え替えて……  
病気になつてないか毎日確認して」

「そうよ。すごくすごく、手がかかって……  
大事に育てられた花たちなの」

//正面

「だから、美しい花を咲かせるのよ。

そう思いながら見ると……」

ちよつと今までとは

違つて見えるわよね」

「ふふふ、私の育てた薔薇を

そんなにじっくり見てもらえると、

なんだか嬉しいわ」

「……あつ……」

「めんなさい。

トゲがあるから気を付けてって  
言おうとしたのだけど……」

「血が出てるじゃない。

ちよつといらつしやい？」

//より正面近く

//演技・指舐め。ゆっくりで長めに

「……ちゅつ……んちゅつ……ちゅ……  
んふ……ちゅつ……  
ちゅ……ちゅぱ……  
ちゅつ……ちゅう……」

//正面に近さが戻る

「これでいいわ。絆創膏も……」

★絆創膏を巻いてあげる。

「これでよし……と……

痛みはないかしら」

//正面

「どの薔薇も……すごく美しいけど、自分を守る棘を持つているのよ。気を付けてね。

私はそういうところも好きなのだけど

「花に興味があるなら、

いつでも薔薇園に来て頂戴？

この花たちも、せつかく美しい花を咲かせたんだから、たくさんの人を見てほしいでしょ？」

//右耳元に近づきながら囁きます  
「でも……」

「良かつたら、見るだけじゃなくて……  
実際に育ててみるって言うのも、

面白いんじゃないかしら……？」

「あなたが他に部活が決まっているなら  
無理強いはしないけれど……」

「意外と、楽しいかもしれないわよ。  
新たな世界が、広がるかもしれないわ。  
薔薇を選んだり、土いじりをしたり……  
そういうの、やつたことないでしょ？」

「自分が育てた薔薇が育つたり、  
綺麗に咲いた時つて、  
見るだけのだったときよりも  
感動するものよ」

「そういう嬉しさって  
なかなか体験できない物だと思うのよね」

＼＼右耳元

「私は毎日部活に居るから。

何かあつたらまた来て頂戴……？

入部したら……

先輩として優しく厳しく……

指導してあげるから」

## ■ トラック1 本当に入部するとは 思わなかつたわ

### ★扉の音

//左側遠くから正面へ移動しながら  
「……あら。

驚いた、前に来てくれた子よね。  
本当に入部したの？」

「……まあ。

いえ、すごく嬉しいわよ?  
でもまさか本当に入部するとは  
思わなくて」

「拗ねないの。これからよろしくね?  
ちゃんと可愛がつて、  
これからいろんなこと、  
教えてあげるから」

「改めて。

私が部長の

瀬納（せのう）結葉（ゆいは）」

「……薔薇園の女王様?  
もう、どこで聞いたの」

「まあ……

確かにそう言わることもあるわね」

//正面

「その名前を聞いたつてことは、  
これも言われたかしら」

//正面から左耳元へ移動しながら囁きま  
す

「薔薇園の女王様には……  
トゲがあるつてこと」

「私……気に入つた可愛い子つて、  
なんだか虐めたく  
なつちやうのよね……▼」

//左耳元から正面に戻ります  
「ふふ、入部したからには厳しく行くから、  
覚悟して頂戴ね」

「まずは園芸部の活動と

当番から説明しましようか」

「園芸部は基本、当番制なの。  
大体二人くらいでペアになつて、  
朝か放課後が活動時間」

「水やりや薔薇が痛んでいないか  
確認をするの」

「大体、週に朝が1回、  
放課後が1回の活動ね」

「あとは苗が届いたときは連絡するから、  
苗付けの量が多いときは  
放課後みんなで集まる。

……それくらいね」

## //正面

「……それだけでいいのかつて顔してゐるわね。  
みんな習い事だつてあるんだから、

忙しいのよ。

私も放課後は習い事の日も多くて――

「あなたは？ 当番日の希望はある？

習い事とか、塾とか……

早く帰らなきやいけない日とか

あるでしよう？」

「……何もないの？ あら、そう。

じやあ手伝つてほしいことがある時は

呼び出すようにするわね。

連絡先、教えてくれる？」

★ スマホを取り出す。  
電子音 連絡先交換

//正面でスマホを見ている顔の向き（下  
向きから）「いい？」で顔をあげる  
「……はい。登録できたわ。

いい？ 私が呼んだら、すぐに来るのよ。  
無視なんでしたら、許さないからね」

「ペアになる相手は……

ひとまず私でいいわね。

いろいろ教えることも多いから。」

「それに……七森つてずっと

女子校だったから、

男の子慣れしていない人が多いのよね」

//正面

「心配だわ。大事な部員たちの間で……  
あなたの奪い合いが  
起きちゃつたりしたら」

「あなたも、大人しそうに見えるけど、  
年頃の男の子だもん。  
女の子の前だと性格が変わつて、  
狼さんになつちやつたり……  
するのかしら？」

「こんな可愛い顔が  
変わっちゃうところ……  
ちよつと見たいけれど」

「ふふ、信用してないわけじゃないのよ。  
あまり気にしないで頂戴」

「とにかく、慣れるまでは  
私とペアってことで、よろしくね」

「それじゃあ、まずは……

明日の朝に来てもらえればいいかしらね。  
その時に日課について教えるわ。  
じやあ、朝7時に薔薇園に集合ね」

「……早い？」

当たり前でしょう。

授業が始まる前に花壇の水やりを  
してやらないといけないんだから」

「間違つても、遅刻しないようにね。

……私を待たせないのよ？ よろしくね」

## ■ トラック2 薔薇の水やりとお耳舐め

★ 走りこんでくる感じ  
★ 勢いよく扉を開ける

//左側遠くから正面へ移動しながら話します

「……遅い。

ギリギリセーフ……ですって？  
あなた、新入生なのよ。  
余裕を持って10分前には  
来るべきでしょう？」

「それに、七森の学生が、  
あんなに足音を立てて  
走りこんで来るだなんて……」

//正面から正面間近に近づきつつ話します

「いい？ あなたは確かに男性だから  
関係ないと思うかも知れないけれど、  
七森は由緒正しきお嬢様学校なのよ」

「そのイメージは守るべきものだし、  
共学になつてから  
素行が悪くなつたなんて言われたら  
堪らないわ」

「ちゃんと、余裕を持って家を出ること。  
七森の学生として  
恥じない行いをすること。  
約束よ」

## ★少し間

>//正面近く

「……あら、いい返事ね。

わかつてくれればいいのよ。

厳しく言つてごめんなさいね」

//右耳元へ近づいて囁きます

「もう一度同じことをしたりしたら……  
そのときはお仕置き、だけど」

//右耳元から正面へ戻りつつ話します

「それじやあ朝当番の仕事を教えるわね。  
ついてきて頂戴」

★扉を開ける  
★足音

//左側で話します（男の子と水やりをす

るようマイクに平行に）

「まずは薔薇園の水やりから  
していきましょうか」

「基本的に……」

もう花が咲いている薔薇は苗が強いから、  
そこまで水をあげなくとも大丈夫」

「むしろ水をあげすぎると

枯れてしまつたりとよくないの」

「//左側（男の子の方に顔を向けつつ）  
「はい、ホースを持つて？」

★ じやぐちをひねる

★ シャワー状、水の音少ししたら止め

「//左側（顔を左から正面に向けつつ話す  
ホースで水を巻くのに釣られるように）  
「びっくりしない。」

制服を濡らさないように気を付けてね。  
手元のレバーで調整しながら、  
雨のように葉や花の上から  
かけるんじやなくて、  
直接、土の表面を濡らすように  
かけていくの。

葉や花には水を掛けないようにね。

葉焼けを起こしたり、

傷付くと痛みやすくなつてしまふから」

★ 水音・ループ  
「//マイクを下げる  
（マイクの上のほうから。  
主人公がしゃがんでいて  
上から見ているイメージ）  
「//左側

「そうそう。

薄く広げるよう…  
水をあげすぎないでね…  
手元のレバーを意識して。  
終わつたら次の薔薇にすぐ移つて。  
ほら、そのペースじや  
授業が始まつちやうわよ」

//左耳元へ囁きます（しゃがんで囁きます）

す

「……上手ね。」

//しゃがんでいるところから立ち上がり  
つつ話します（再び上方から声をかける  
ように）

「きやつ……

もう、びっくりしてどうしたの。  
なあに？ 突然囁かれて、  
感じちやつた……？」

「去年まで女子高だった学園を

わざわざ選んで入学してきて……

女の子慣れしてるとと思つたけど、

意外とウブなのね」

//マイクを元の高さに戻す（ヒロインが  
しゃがみ同じ目線に再びなつたイメージ）

//左側（男の子と並行）

「ほら、このまま水やりを続けて？  
私が側で見ていてあげるから」

//左側（男の子の方に顔を）

「そういえば、あなたつて、

どうして園芸部に入つたの……？

花に興味があるつて

言つてたけど本当に……？」

//左側（男の子と並行）

「ほら、手がおろそかになつてるわよ。  
ちやんとなさい。」

//左側（男の子の方に顔を）

「もしかして……」

誰か可愛い女の子でも

見かけて入部してきたんじゃ……？」

「そんなふうに必死に否定されると、怪しいわね。

もし……気になる女の子がいるなら、私、協力してあげてもいいわよ……本当にいの？

……なんだ……」

「……もしかして、その気になる子……私じゃ、ないでしようね？」

「ちよつと。何その態度。

顔、赤くなってるわよ。

もしかして……図星なの？」

「そんなに否定しなくてもいいじゃない。もし……私のことが

気になってるって言うなら私だつて……」

//左耳元で囁きます・耳にキス

「ちゅつ……

……ふふ、ごめんなさい。

あなたの耳、可愛いから」

「あなたにその気があるなら……こんなふうに可愛いがつてあげるのに」

## //左耳元・耳舐め

「ん、んちゅつ……はあ……ちゅ……

ちゅつ……ちゅぱあ……

ちゅつ……ちゅう……

作業、続けて……?

ちゅつ……んちゅ……

ふう……ちゅ……はあ……ちゅつ……▼

「……もう。素直になつてくれたら、  
もつと可愛がつてあげられるわよ……▼

「なあに?

……もしかして、

もつとしてほしいのかしら。

あまり時間はないから、

ちゃんと作業は続けてね」

「……ちゅつ……ん、んむ……

ちゅつ……はあ……

耳舐められるの……気持ちいいの?」

「ちゅつ……ちゅう……ん、んふ……

はあ……ちゅつ、ちゅるつ……

ちゅつ……んむ……ふ……ちゅつ……

ちゅる……はあ……ちゅつ……

ちゅう……」

「水あげすぎないように、気を付けてね。

そう、上手よ……

ちゅつ、ちゅぱあ……

ちゅつ、ちゅる……

ちゅつ……ちゅう……」

## ●耳舐め・左

//左耳元で囁きます

「こ」の辺りの薔薇はこれくらいかしらね。  
今度はこっちに移動してくれる?」

//位置移動

//右側で話します (男の子と並行)  
「こ」の薔薇は植え付けしたばかりなの。  
こういう植え付けたばかりの

苗にはしつかり水をあげるようにしてね」

★ 水音・ループ

「土がしつかり潤うように意識して。  
……そう、それくらいよ」

「……もう。何期待してる顔、してるので?  
もう片っぽの耳も、

舐めて欲しいんでしよう?

仕方ないわね」

//右耳元・耳舐め

「ん……んちゅつ……ふう……

ちゅつ……ちゅぱあ……

耳舐められるの、初めて?」

「ちゅつ……ちゅう……

ちゅぱ、ちゅるつ……ちゅつ……

初めてで……

病みつきになっちゃったんだ……?

ちゅつ、ちゅぱあ……

じゅるつ、ちゅつ、ちゅう……

はあ……ちゅつ……」

● 耳舐め・右

//右耳元から右側へ移動しつつ話します

「薔薇園の水やりはここまでね。

じやあ……残念だけどお耳もここまで。

ふふ……

また、今度ね」

//右側（男の子の方に顔を）

「朝はあまり時間がないから

基本は水やりをメインに。

可能なら薔薇の様子を見てあげてね」

「もし、葉っぱが黒くなつてたり、

枝が枯れたりしていたら報告して頂戴。

……とりあえず今日は問題なさそうね」

//マイクを下げる

//しゃがんではいるところから立ち上がり

つつ

「水やりはまだ終わりじやないのよ。

ホース持つて」

//上方から

「薔薇園の水やりは終わつたけど、

まだ玄関の花壇と

昇降口前と中庭が残つてるわ。

ほら、急いで。時間がないわよ」

★予鈴

//時間経過

//マイクを元の高さに

//正面

「……お疲れ様。なんとか終わったわね。

朝当番は基本水やりが仕事ね。

雨の日は外の水やりはしなくていいから  
少し楽だけど」

「じゃあ……次は……」

★スケジュール帳をめくる紙音

「明日の放課後ね。

その時に薔薇の植え付けもしましようか。

時間厳守よ。遅れないようにな」

### ■ ト ラ ッ ク 3 薔 薇 園 の 女 王 様 と の 放 課 後 部

#### 活 動

／＼正面遠くから正面へ移動しながら話します

「あら。意外と早かつたじやない。  
もしかして、

部活が楽しみだったのかしら」

「そうね、昨日の朝は水やりだけだったし、  
いよいよ本格的に活動できるわね」

「水やりは朝だけで大丈夫よ。  
あまりにも暑い日は

学内整備の方が昼も

水やりしてくれるけれど。

お世話をしそぎてもよくないから」

「外の花壇の花はそこまで

手入れをしなくて大丈夫だから、

放課後の活動は薔薇園がメインね」

「じゃあ、

まずは剪定からしていきましょうか」

//正面から右側に移動しながら話します

(イメージとして

一緒にしやがんで花を見つつ)

「……この花がいいかしらね。

まだ綺麗に咲いているように  
みえるでしょう?」

「でも、開ききって

かなり古くなっている花なの。  
だいたい薔薇の花は咲いてから  
2週間くらいね……」

「こうなつたら、

枝の3分の1くらいのところから……」

★。パチンと切る

「こんなふうに切り落としてあげるのよ。  
こうすると新しい芽が出てきて、  
また新しい花が咲くから」

「それからこんなふうに

枝が枯れてしまっているところも、  
しつかり切つてあげれば、  
また芽が出てくるわ」

//右側 (男の子の方へ顔を)

「やつてみる?

ちよつと待つていて。

男性用の手袋があつたはずだから」

//右側（男の子方へ顔を）  
あつ……ちよつと、  
素手で触るなんて……」

「ほら、危ないって言つたじやない。  
薔薇にはトゲがあつて危ないのよ」

「あー……血が出ているわ。  
ちよつと見せて」

//右側から正面近くへ移動しつつ（イメージとしては男の子も右向きになつてヒロインに指を見せているイメージです）  
「トゲの先が入つちやつてるじやない。  
ちよつと押すから、我慢してね」

「痛い？ もう、男の子でしよう？  
それに、私の言いつけを守らずに  
触つたのが悪いんだから」

「んつ……もう少し……よいしょ……  
ここまで来たらトゲ抜きで……」

「はい、取れたわ。

……血が出ちやつたわね。

そういえば……

前にもこんなふうに怪我してたわよね。  
あなたが初めてここに来た時も……」

//正面間近・指舐め

「……ちゅつ……

その時も……こんなふうに  
指を舐めてあげたんだつたわね」

//正面間近

「んちゅつ……ちゅつ……

消毒液、忘れちゃつたから……

いうすると、治りが早いって

言うでしよう？」

「ちゅつ……んちゅつ、ちゅう……

ちゅるつ、ちゅつ、んく……ちゅう……

はあ……ちゅつ、ちゅぱあ……

ちゅるつ、ちゅう……」

「……傷のところ以外も舐めてるって……？」

「ふふ、舐めてたら楽しくなつて  
来ちやつたから……▼」

「ちゅつ……ちゅぱあ……

ちゅつ、ちゅるつ……ちゅつ、んつ……

はあ……あなたの指つて、

結構太くて……

ちゅつ、ちゅるるつ、ちゅつ……

女の子の指とは……

なんだか違うわね……」

「ちゅつ、ちゅぱあ、ちゅるつ、

ちゅつ、ちゅう……

んふ……はあ……ちゅつ……ちゅう……

ふふ、舐めてたらちよつと

えつちな気分になつて

きちやつたわ……▼

## //正面間近

「あなたも、そうなんじやない……？」

先輩に、怪我をした指を舐められて、今までとは違う感情を抱いたやつた？」

「……からかわれて、

赤くなつてゐるわよ。可愛い」

「意外と、図星だつたりするのかしら。  
まあ……私としては……」

大切な他の部員に手を出されたり、  
女性関係で揉められるよりは……  
私を想つてくれた方が  
ありがたいかなと思うけど」

「……ん……んちゅつ……」

ちゅつ、ちゅるつ、ちゅ……

ちゅ、ちゅぱ……

ちゅつ、ちゅる……ちゅつ……」

— 26 —

### ●指舐め

//正面間近から正面へ距離をとりつつ

「ふふ……これくらいかしらね。

もう痛くない？

とにかく、薔薇には全て、

棘があるんだから……

ちゃんと、手袋をつけて、  
気を付けて扱いなさい。

そうしないと……怪我しちゃうわよ」

★ 移動

★ 戸棚をあさるような音

★ 移動

「正面遠くから近くへ移動しつつ  
「はい、手袋。これをつけて切つてみて。  
……可哀想つて顔しないの。

またちゃんと新しい芽が生えてくるから」

★ パチン

「右側（正面の花を見つつ）

「はい、よくできました。

「じゃあ、今度はこっち」

「こつちはつる薔薇ね。

「切つた部分から

「どんどん成長していくから、  
あまり躊躇しなくていいわよ。

「さあ、古くなつた花、探してみて？」

「……それはもう少しかしらね。  
ええ、その花ならいいわ。

「枝から3分の1くらいのところを……」

★ パチン

「右側（男の子の方に顔を）

「ふふ、よくできました。

「意外と飲み込みが早いじやない。

……ちよつと褒められたくらいで  
調子に乗らないの。

「ほら、薔薇はたくさんあるんだから、  
どんどん見ていくって」

//時間経過

★剪定の音しばらく

//右側（正面の花を見つつ）

「これくらいかしらね」

//右側（男の子の方に顔を）

「放課後の活動としてはまず、

薔薇園の薔薇を全て見て回ること。

咲き終わった薔薇や枝や

葉の痛んだ部分がないか確認して、

剪定してあげること」

「特に問題なればこれで終わりよ。

でも……今日は新しい苗が来ているから、

植え付けしてみましようか。

準備するから、こっちに来て？」

★足音

//正面から話します

「はい、シャベルと、こっちが肥料。

こっちが植え付け用の石ね。

全て運ぶのよ。よろしくね」

//時間経過

★足音

//左側（正面の土の方へ顔を）  
「……この辺りがいいかしら」

//左側（男の子の方へ顔を）  
「ほら。これくらいでバテないの。  
男の子でしよう？」

//左側（正面の土の方へ顔を）  
「じゃあ、

この植木鉢の土が全部入るくらい……  
30センチくらい、穴を掘つてくれる？」

★土を掘る音

「それくらいでいいかしらね。  
そしたら今度はこの肥料を  
穴に入れて……  
穴の中の土と混ぜてあげて」

★土を混ぜる音

「……それくらいね。  
そしたら小石を底に平らに敷き詰めて」

★石を敷き詰める

／＼左側（正面土の方へ顔を）

「薔薇の根元を持つて、

傷つけないように気を付けながら、

植木鉢から引き抜いて……

穴に植えたら、

周りの土をそっとかけてあげて」

### ★土の音

「あまり土を叩きすぎないで、  
ふわっとした感じでいいわ。

根元は少し盛り上げて、

畝を作つてあげて」

### ★土の音をバックで

「初めてにしてはスムーズにできるわね。  
筋がいいわ。

七森の女の子たちつて

お嬢様が多いから……

園芸部に入つても、

「こういうの不慣れなことが多いのよね」

「薔薇や花は好きだけど、

土に触つたり、肥料を上げたり……

そういうのは得意じやないって」

### ／＼左側（男の子の方へ顔を）

「あなたは……向いてるみたいね。

嬉しいわ。

誘つてみて、よかつた。

園芸部に入つてくれて、ありがとう

//時間経過

//左側（正面土の方へ顔を）

「いいわ。これで全部ね。」

ここまでできたら土の表面に  
緩効性（かんこうせい）の肥料を  
振りかけてあげて……」

「あとは少し表面に水を掛けてあげたら  
おしまいよ」

### ★水の音

//左側（正面土の方へ顔を）

「……よくできました」

//左側（男の子の方へ顔を）  
「どう？ 自分で植え付けすると、  
なんだか嬉しいでしよう？  
これから何か月もかけて  
大きく成長して……」

「うまく成長したらこれからずっと、  
何年も……」  
あなたが卒業しても、  
誰かが世話を引き継いで、  
この薔薇はずつと成長し続ける……」

「そう考えると、なんだか素敵じやない？  
ふふ、ちょっと満足そうな顔してるわね」

〃左側（男の子の方へ顔を）  
「週に1回くらいの活動だけど、  
やつていけそうかしら」

「……いい返事ね。  
改めてこれからよろしくね」

## ■ トラック4 あなたの股間に生えているものも確認しないと。

//正面遠くから正面へ近づきつつ話します

「あら。いらっしゃい。

あなたが入部してからもう一ヶ月ね。  
部活にも大分慣れてきたみたいね」

「……聞いてるわよ。

あなた、自分の当番じゃない日でも  
薔薇園に顔出してるんでしょう?  
あなた、すっかり園芸部に  
馴染んでるじゃない」

//演技..少し冷たく拗ね

「……まあ、いいけれど。

みんなからの人望も厚いようだし、  
可愛がられてるみたいだし、  
次の部長はあなたかしらね」

「あなたが来るまでに

剪定は一通りしておいたから、  
今日は苗をいくつか植えてほしいの。  
今日届いたのがこれなんだけど……」

//正面から正面遠くへよたよた移動しながら

「……そんなに持つて大丈夫?  
危ないわよ。

一個ずつ運んだ方がいいんじゃない?  
もう……ちゃんと前を見て……」

「……きやつ……」

★ガシヤン 植木鉢を落とす

／＼正面遠くから正面近くへ急に移動しながら

「大変……っ！ もう、何してるのでっ！  
肥料と石、早く持ってきて！  
すぐ植えるわよ！」

★土を掘る音など入れて時間経過演出

／＼正面

「……はあ。なんとか無事に植えられたわね。  
じやあ……  
お説教と行きましょうか……？」

／＼正面間近に移動しながら

「私、危ないからやめなさいって  
言つたわよね」

「今日は苗が傷付いていなかつたから  
なんとかそのまま植えられたけど……  
苗自体がだめになつていた  
かもしれないのよ。  
明日になつたらどこか傷付いていて、  
枯れてしまうかもしれないわ」

「あなた、園芸部に入つて、  
慣れてきたからって……  
たるんてるんでしよう。  
珍しく男の子が入つてきて、  
みんな褒めてくれるから、  
調子に乗つちやつた？」

## //正面間近

「誰だつて不注意はあるわ。

あなたが危険なことをせずに

落としてしまったなら、

私は別に怒つたりしないの」

「でも……今回はそうじやないわよね。

私の言つてること、理解できている?」

「……そう。ちゃんと謝れるのは、偉いわね。

……ふふ、さすがのあなたも

落ち込んでるわね。

落ち込んだ顔も、可愛い」

「わかつてくれればいいのよ。

薔薇の苗は、女の子のように……

決して傷つけないように、

大事に、大事に運ぶの。

それを意識すれば、

今回のような間違いは犯さないはずよ」

//正面間近から正面へ移動しながら話します

「……じゃあ、お説教はおしまい」

//正面から左耳元へ囁くように

「今からはおしおき……ね。

こつちにいらつしやい?」

★ 移動

★ 扉を開ける音

★ 扉閉め、鍵掛け

★ 移動

//左側（男の子の方へ顔を）

「温かいでしょう？ ここは特別な温室なの。  
気温の変化に弱い薔薇を育てていて、  
室温は管理されてて、  
水も少しずつゆっくりあげる  
装置がついてる」

//左側から一步後ろに移動しつつ（イメージとして逃げようとする男の子をつかむような感じで）

「ほら。逃げないの。痛くしないから。

ここに座つて？」

//マイクを下げる

//正面間近に回り込みつつ

//上方から見下ろしつつ話す

「……男の人って、

私たち女人とは違つて……

ここに、何か生えてるんでしょう？」

「……ふふ。

「鍵も閉めちゃつたし  
ここなら誰も来ないし……」

//正面間近マイク上方

「靴を脱いで、足で……

ふふふ、踏んじやつた……▼」

「確かに、潰したり衝撃を与えると、  
すつぐく痛いんだつたかしら?」「

「脅えないでよ。……痛く、しないから。  
でも……あなたが不用意に

動いちやつたりしたら……」

間違つて、痛くしちやうかも……▼」

「……制服の上からだけ……」

足の裏に何か感じるわ。

ふうん、これがおちんちんなのね……  
足の裏で触つてあげる……▼」「

★制服の上から足コキ、ゆっくり触るよ  
うな感じで布音少し

「……なんて顔してるの?」

そんな……気持ちよさそうな顔して。  
これはおしおきなのよ」

「もつと……

怯えたような顔してもらわなきや。

そう……悪いことしてごめんなさいって、  
そう思いながら罰を受けるのよ」

//正面間近マイク上方

「……あら。さつきは柔らかかったのに……  
なんだか、硬くなつてきたような……？  
気のせいよね。」

これはおしおきなのに……  
先輩におちんちん足で弄られて、  
感じたりしてないわよね」

★制服の上から足コキ、ゆっくり触るよ  
うな感じで布音少し

「……あら。

なんだか盛り上がつてきたような……？  
そこに何か隠しているのかしら？」

//左耳元へ囁き

「……ねえ。

制服とパンツ下ろして、  
その場所がどうなつてるか、  
見せなさい？  
先輩の言うコト……聞けないの？」

★下脱ぎ

//正面間近マイク上方

「……よくできました。」

「……まあ……よく見せて？」

//正面間近マイク上方

「へえ……初めて見たわ。おちんちんって、こんなふうになつちやうのね……」

「……くすくす、すごい。

こんなに固くなつて、充血して……  
私に足で踏まれて……

気持ちよくてこうなつちやつたの?  
もう、おしおきなのに。悪い子ね」「

「……こんな熱くて固くなつてるの……  
踏んだらどうなつちやうのかしら」「

★足コキ、少し

「触つただけで……ビクビクしてゐるわ。

情けない声出して、どうしたの……?」

「……可愛い顔が、真つ赤になつてるわよ。  
男の子つて、

みんな股間にこんなもの生やしてゐるのね」

「……あら。ごめんなさい、

ちよつと強かつたかしら。

こんなこと初めてだから慣れなくて。

あなたがどうしたいか……：

どうしてほしいか、教えてくれる?」

「足の裏で……おちんちんをいっぱい触つて、  
すりすりなぞつて欲しいの?  
あなた、おしおきだつてわかつてゐる?  
特別だからね……?」

## ★足コキ

//正面間近マイク上方

「……ふふ。気持ちよさそうな……顔……▼」

「薔薇園の中で、

先輩にパンツ脱ぐように命令されて……  
足の裏でおちんちん踏まれて  
すりすりされて、

こんなに興奮しちゃうなんて……」

「あなたってすっごく……変態さんなのね。

それに、意外と……  
いじめられるの、好きなんだ……？」

「嫌がつたりはしないのね？」

私に……もっと、してほしいの？」

「……ふふ、素直なあなたってすゞく可愛い。  
もつと……いじめたくなっちゃう」

## ★足コキ

「……はあ……どう……？」

足で……先っぽも、ふにふにしてあげる

「……ふふ、こんなふうにはしたなく  
足を動かすなんて、初めてよ」

//正面間近マイク上方

「……鼻息荒くしながら、どこ見てるの？」

もしかして……私の足？

ああ……確かに……

私のパンツ、見えそうね」

「私のパンツ……見たい？」

見たらもっと興奮するって言うなら……

いいわよ」

★衣擦れ、スカートめぐりあげ

「はい、どうぞ……▼

ストッキング履いてるから、  
あまり見えないでしようけど。

……それがいいの？」

ふうん、いろいろあるのね」

「私のパンツが見れて……

興奮してるみたいね。

おちんちん、さつきと動きが違うわよ。

あなたの興奮が……

私の足の裏から、伝わってくるわ」

「それに、足の裏って言うのも……

結構気持ちいいのね。

こうやつて、両足で挟んで、

何度もスリスリして……

なんだか私も

気持ちよくなつて来ちゃうわ」

//正面間近マイク上方

「……ん……冷たい。

なんか、先端から何か出てるわよ。

……我慢汁って言うの？

……ふうん、気持ちいいと出ちやうのね。  
じゃあ……もつと出るようにな  
いっぱい動かしてあげようかしらね」

「こうやつて足の裏で……挟んで……  
どう……？」

私はちょっと恥ずかしいけど……  
パンツ、しつかり見えるでしょ？」

「ふふ、吐息荒くして……

私のパンツ、

しつかり凝視してわね……」

「ほら。もつと感じなさい……？」

もーっと気持ちよくなつて……

私の足の裏で何度もしごかれて……

誰か来るかもわからない

放課後の薔薇園で……

精液どぴゅつて出せたら……、

おしおきは終わりにしましようか」

「男の人って、気持ちよくなると……

硬くなつたおちんちんから、

精液がいっぱい出るんでしょう？

私、それ、見てみたいのよね」

//正面間近マイク上方

「ほら……精液出すまで、

気持ちよくなりなさい……？

私の黒いストッキングに……

あなたの真っ白な精液いっぱいかけて？

それができたら、

今日の失敗は許してあげる」

「……先端、もっと刺激してほしいの？」

じやあ……我慢汁の穴踏みつけて、

全体にもつと塗りたくつてあげる。

私の足の裏も……

なんだか湿つて来ちゃったわね」

「ふふ、私の足で感じているあなた、

すごく可愛いわ。

もつと、気持ちよくなつてる姿、

見せて？」

「……ああ、いいわ。

すごく、堪らなそうな顔……▼

もう、耐えられないつて顔、

すごくいい……▼

「もつと激しく、『じじ』しつてしてあげる。

はあ……すごく、いい……

可愛い……▼

はあ……あ……▼

//正面間近マイク上方

「はあ……あなたの可愛い顔見てたら、  
私も興奮してきちゃったわ。

ん……んう……あ……はあ……  
もつと……

気持ちよくなつて、見せて……▼」

「ん、んんつ……▼

我慢汁、すごくて……

なんだかくちゅくちゅつて、  
えつちな音してるわね」

「はあ……すごい。

これが男の人のおちんちん……▼

可愛い……▼

もつともつと、

あなたのえつちな顔も、  
えつちな姿も見たいわ……▼」

「ん、んんつ、もつと強く……

足の裏で挟んで……

はあ……気持ちよきそう……▼

おちんちん

どんどん硬くなつてるわ……▼」

「あ、はあ……見たい……▼

精液出るところ……見せて?

あなたが果てちやうところ……

私の目の前で、見せて?」

//正面間近マイク上方

「んんっ、もう……そろそろ？」

出ちやうの？」

ええ。出して？」

私の足で挟まれて……▼  
気持ちいいって精液いっぱい、出して？」「

「ああ、いいわ。可愛い、可愛い、可愛い▼

感じてるあなた、可愛い▼

はあ、はああつ、あ、あつ▼

ん、んんう▼

見て、私のパンツ、んんっ、もつと、

見て、あ、あつ▼

はあ、あつ、どぴゅどぴゅつて、

精液、あ、あつ……出してつ▼」「

「あ、あつ……んんっ、あ、はあ……  
あつ……んんっ！！」

### ★射精

「……はあ……んふふ……わあ……▼  
まだ出てるわ……▼ すごい……  
こんなにいっぱい出て……▼  
こんなにびくびくして……：  
精液つてこんなに飛ぶのね……▼  
私のストッキング、  
真っ白になっちゃった……▼」

「あら……見て？」

私のスカートまで飛んじやつてるわ。

そんなにも私に……

届けたかったのかしら」

//正面間近マイク上方

「くすくす、可愛いおしおき……

お疲れ様でした▼

私におしおきされたくなかったら……

これからも失敗しないように

気を付けるのよ」

//右耳元へ近づきながら囁きます

「まあ……

もっとおしおきされたいって言うなら、  
考えてあげなくも、ないけど……▼

## ■ トラック5 びしょびしょになっちゃった から温め合いましょう?

### ★扉の音

//正面遠くから正面へ移動しながら話します

「おはよう。

今日もちゃんと遅刻しないで来たわね。  
それじやあ早速水やりしましょうか」

### ★移動音 ★水音

//左側（正面地面の方へ顔を）

「水やりもすっかり慣れてきたわね。

……ふふ

### ★水音止め（ホースを踏む感じ）

//演技・悪戯に。ホースを踏んで水が出  
ないよう悪戯してます

//左側（男の子の方へ顔を）

「あら？ どうしたの？

水出なくなっちゃった？

どこか引っかかるてるんじやないかしら」

★水音・噴き出す感じ

//左側（男の子の方へ顔を）

「きやつ……！」

「もう……つ、何してるの。

今まで濡れちゃったじやない。

きやつ……！」

や、やだつ、

もう、早く止めなさい……！」

★蛇口を止める音

「あーあー……、もう……

びしょびしょに

なつちやつたじやない……：

これじやあ1時間目の授業は  
受けられそうにないわね」

//左側から正面遠くへ一歩前に出る感じ  
で

「職員室に電話してくるから、

ちよつと待つてなさい。

……体操着で授業を受けるなんて、

そんなはしたないこと許さないわよ」

「家に電話して、

あなたの分も替えの制服を

持つてきてもらうから。

ほら、そんな濡れた服で待つてたら  
風邪引いちやうわ。

温室内に移動しましょう？」

★移動

★扉の音

★閉めて鍵をかける音

★移動

//正面遠くで

//演技・電話している風

「ええ……ええ……」

ようしくお願ひします……」

//正面遠くから正面移動しながら

「電話したわ。

1時間目は休んで、

ここで待っていましょう?」

「ん……濡れた服が制服にはりついて、  
気持ち悪いわね」

★服を脱ぐ

「ふう……温室は温かいから、  
裸でも大丈夫そうね。  
ほら……」

いつまで濡れた服を着ているの?  
早く脱いじやいなさい?」

「どうしたの? 恥ずかしいの?  
……私に裸を見られるのが?  
……ふふつ、意外と、ウブなのね。  
私と……あんなことまでしたくせに」

//正面

「命令よ。脱がしてあげるから……」

「私の前で裸になりなさい？」

鍵はかけてあるから、

誰も入つてこないわ」

「ほら……脱がしてあげるから」

★服脱がし、布の音

「……ふふ。ほら、堂々としてなさい？」

大丈夫。あなたの裸……

すごくかっこいいわよ？」

もう少し筋肉が付くと、

なおいいかしら……」

毎日土とか運んでたら、

トレーニングになるかしらね」

//正面間近へ移動しながら囁きます

//肌に触れていく。

「……だーめ……逃げないの。

あなたの肌つて……

結構すべすべしててるのね」

「……ちゅつ……」

ほら……濡れた服、

早く脱がなかつたから……

冷たくなつてるじやない……

風邪を引いたら大変ね。温めてあげるわ」

//正面間近

//演技・肌を舐めていく

「ん……ちゅつ、んちゅ……

んふ、はあ……

ちゅつ、ちゅる、ちゅぱあ……

はあ……んう……

ちゅつ、ちゅる……

ん、んむ……ちゅつ……ちゅ、はあ……」

「濡れた肌を温めてあげているだけ  
なのに……なんて顔しててるの」

「ちゅつ、ちゅるるつ……

じゅる、ん、んふう……

ちゅ、ちゅぱあ、ちゅつ、

ちゅる、ちゅ、んんんつ……

んふ……はあ……ちゅつ。

じゅる、ちゅ、ちゅぱ、じゅるつ、

ちゅつ……ちゅう……」

「もしかして……感じちやつてるの？」

先輩に……裸で……

濡れた肌を舐められて……

こんなところで……？」

「でも……嫌がらないのね？」

もつとしてほしいんでしょうか？」

おねだりしたって、いいのよ……？」

もつと……温めてくださいって、

言つて御覧なさい？」

//正面間近

「ふふふふふふ……

あなたつて、本当に……素直で可愛い」

「ほら、もつとこつちに来なさい？

私の肌も冷たくなつてるから……

温め合いましょう？」

//右側間近へ移動しながら囁きます

「ちゅつ……んむ、ちゅつ……

はあ……ちゅつ……

ちゅるるつ、ん、んむ……ちゅつ……

はあ、ちゅつ、ちゅるるつ、

ん、んむ、ちゅつ……」

「きやつ……」

「もう、あなたも私の肌を

舐めたくなつちやつたの？

突然したらびっくりするじやない。

ちやんと……先輩の肌……

舐めさせてくださいって言わなくちや

★少し間

「ふふ、可愛い。

いいわ。二人で舐め合いましょう？」

//マイクより下、いろいろな場所舐めながら移動する感じで

「ちゅつ……んふ、ちゅ、ちゅぱ、  
じゅるるつ、ん、んむ、ちゅぱ、  
じゅ、ちゅるるつ……▼

はあ……ん、ん……

つ、はああ……あつ……▼

はあ……んんつ……ちよつと……

あ、あつ……』

「もう……そんな、えつちな舐め方、  
しないでよ。

はあ……ん、んんつ……もう……  
どこでそんなの、覚えてくるの……?  
あ……んんつ……』

「はあ、あつ……ちゅつ、ちゅう……  
ん、んちゅつ……

ちゅつ、ちゅぱあ……、

はあ、あつ……ちゅつ、ちゅう……

ん、んんつ！ あ、あつ……

んつ……んう……ちゅつ……

ちゅう……じゅ……じゅるるつ……』

「……あら。

もう……大きくなつてるじやない……▼

「ちゅつ、ちゅう……じゅるつ、ちゅつ、  
ちゅぱ、ちゅつ、ちゅうう……▼  
あ、んんつ……はあ……

ちゅつ、ちゅう……

んむ、ちゅつ、ちゅぱあ……▼

//マイクより下股間の位置で  
「あ、あつ……はあ……あつ……

「、こ……♪

舐めて、欲しいの……？」

「ちゅつ、ちゅぱあ……

じゅるつ、ちゅつ、ちゅう……▼

「もう……仕方ないわね……

早くパンツも脱ぎなさい？」

「こ」の間も見たけれど……

男の人って、こんなものを

股間に隠しているのねえ……

充血しちゃって……苦しそうね「

「こ」の私に膝をつかせるなんて、  
あなたくらいのものよ？」

//演技・フェラ

「ちゅつ……じゅる……

ちゅつ、ちゅぱあ……、

んちゅつ、じゅる……

ふふ、情けない声が漏れてるわよ？

そんなに気持ちいいの？」

「……そう。そこまで感じてくれるなら、  
ちよつとやりがいがあるわね」

//マイク下股間の位置で

「ちゅつ、じゅる……ちゅつ、ちゅぱあ……  
じゅるつ、ちゅつ、ちゅ……ちゅう……  
はあ、あつ……

んむ、ちゅつ、ちゅる……  
じゅる、ちゅつ、ちゅるるつ、んむ、ん、

はあ……ちゅつ、じゅるるつ……  
はああ……あつ……んんつ……

んふ……ん……んむつ、ちゅつ……  
ちゅる……じゅるるつ……」

「はあ……あなたのおちんちん……

私の唾液でべとべとになつちやつたわ。  
これがいいの？

ふうん……」「

「ちゅつ……ちゅるつ、じゅるるつ……  
ん、んむつ……ちゅつ、ちゅぱあ……  
じゅるつ、ちゅつ……んふ……  
じゅるるつ、ちゅぱ、ちゅつ……」

「んふ……私の口の中で……

ビクビクして……

おちんちんつて……可愛いのね。  
あなたのだからかしら」「

「もつと、いろいろ舐めてあげるわ

//演技・吸い

「じゅるつ……ちゅつ……ちゅう……」

//演技..咥えたまま

「んむ……吸われるのも、いいの？」

//演技..吸いメイン

「ちゅつ……ちゅう……じゅるつ、んちゅつ、  
ちゅつ……ちゅばあ……」

「ちゅつ、ちゅく……ちゅう……じゅる、  
ちゅつ、ちゅば……ちゅつ、んんつ……  
ちゅるつ、ちゅ、ちゅう……じ  
ゅる、じゅ、じゅるるつ、ちゅつ、  
ちゅう……」

「んふ……可愛い顔。

もつと食べたくなつちやうわ。

んむ……ちゅつ、じゅる……

ちゅつ、ちゅう……ん、んんつ……」

★予鈴遠くから

「ん……チャイム、鳴つちやつたわね」

//左耳元で囁きます

「もう……誰も来ないわよ。

こんなふうに裸で絡みあつても……  
しばらくは誰にも見つからぬいわ」

//演技..耳舐め

「んちゅつ……ちゅつ……はあ……

ちゅつ、ちゅるつ……

ふーーー……

相変わらず、耳も弱いのね」

//左耳元で囁きます

「こ」んなところ、

見つかつたら大変なことに

なつちやうわね。

でも……止められない、でしよう？」

「ちゅつ……んちゅつ、はあ……  
んつ……ちゅつ、ちゅぱ……ちゅつ……」

「あつ……やだ、んつ……首筋……

んつ、んんつ……

はあ……続けて……？

あ、あつ……んんつ……

ちゅつ、ちゅう……あ、あつ……

んんつ……んふ、あ……

ちゅつ、ちゅぱ……

おちんちん、切なそうね。  
しごいてあげる」

## ★手コキ・ループ

//演技・耳舐め

「ちゅつ、ちゅるつ……

じゅるつ、ちゅつ、ちゅぱ……

ちゅつ……おちんちん、

限界みたいね……

ちゅつ、ちゅるるつ……ん、んふ……

じゅるつ、ちゅぱ……

ちゅつ、ちゅう……

はあ……じゅる……

ちゅつ、ちゅるるつ……

んむつ、ちゅつ、ちゅぱ……」

★ 射精

「……きやつ……」

「……きやつ……」

「……きやつ……」

「//左耳元から正面間近へ移動しながら話します

「はあ……ん、すごい……」

「ドクドク、脈打つてるわ……」

「//正面間近から正面へ移動しながら話します

「もう……手が汚れちやつたじやない。」

「出す時はちゃんと言いなさい？」

「それでも全然、」

「小さくならないのね？」

「まだ……したいの？」

「//正面、地面を指しつつ話します

「じゃあ……ここに横になつて？」

## ■ トラック6 私の中、気持ちいい？

「マイクを下げます（可能なら床に仰向けに）

「マイク上方遠くから話します

「ふふ。裸で温室の床に寝転がって……  
変な気分でしよう？」

「マイク上方遠くからマイク上方近く（股間の位置に相当する部分）へ移動しながら話します

「……えい。

「……あなたのに、跨つちやつた……  
このまま舐めてあげてもいいけど……  
もつと、したくない？  
私の……ここに、入つたりとか……▼」

★素股・くちゅ音小

「んつ……んうつ……あ……  
はあ……私の大事などころと、  
擦れちやつてるわ……  
このまま続けたら、入つちやいそうね」

「あなたが可愛いから……

「私も大分、興奮しちやつてるのよ。  
もつと……してみたいんじやない？  
あなただつて、散々私に悪戯されて、  
気持ちよくなりたいんでしよう？」

「私のおまんこに入りたいって

「言ってくれたら、

入れてあげてもいいわ？」

//マイク上方

「……ふふ。あなた、

自分の今の姿わかつてる？

でも……仕方ないわね。特別よ」

//演技・挿入

「んつ……んつ、んんんつ……！」

はあ、あつ……

んんつ、んん、あ、あつ……」

「はあ……入つちやつたわ……」

ふ……ふふふ……▼

んつ……私のおまんこ、  
広げられちやつてるわ……、はあ……

お腹の中、いっぱいで……

なんだか苦しい……」

「気持ちいいの……？」

こんな快感、初めてなんだ……？」

「……これがセックスなのね。

病みつきになつちやう人がいるのも、  
わかるわ。

ん、んつ……確かに、お腹の中、  
いっぱいで……はあ……

ん、んんつ……▼

あ、はあ……んつ……

おまんこで受け止めると、

さつきまで可愛かつた

あなたのおちんちんも、  
全然違く感じるわ……

▼

## //マイク上方

「さつきまで舐めていた時は、  
なんだか可愛いって感じなのに、  
今は……すつごく、かつこいいわ  
んふ……私のお腹の中で、  
ビクビク震えてる。

私の中で……どうしたい?  
動きたいんじゃない?」

「んつ……だーめ、突き上げちや……  
私が動くから、動いてほしいんだつたら  
ちやんと言つて?」

「……ふふ。先輩に主導権取られて、可愛い。  
じやあ、動いてあげるわね……」

### ★くちゅ音・ゆつくり

「んつ……んう……あ、あつ……  
擦れるの……いいつ……あ……  
あつ、んんつ……んう、あ、あつ……」

「はあ、あつ……んう、あ、あつ、あつ……  
はあ、動くたびに……  
あなたのおちんちん  
、気持ちよさそうに  
大きくなつてる……▼  
セックス、好きになれそう……?」

「確かに……

この気持ちよさは、  
他じや味わえそうにないわよね  
あ……あつ、ん、んう……ふう……  
んんつ、んく、あ……あつ……」

## //マイク上方

「はあ……見て？ 見える……？  
あなたのおちんちんが……  
ゆーつくり……はあ……  
先端から、んつ、んんつ……  
根元まで、飲み込まれて、  
いくところ……」

「はあ……あつ……もう一回……  
ゆーつくり……ああつ……  
引き抜いて……  
あつ、ん、んくつ……はあ……  
ゆーつくり……腰を下ろして……  
あつ、あつ、ん、んくつ、んんつ……」

「はああ……▼

感じちやう……んつ、あ……  
一気に快感が突き抜ける感じ……  
病みつきになっちゃいそう……  
あなたも、同じかしら……▼  
ん、んう……  
は、はああ……あつ、んんつ……▼

「もつと動いてほしいの……？  
だめよ、お願いするなんて。  
私が先輩なんだから……  
私が気持ちいいように動くから、  
あなたはそれを感じて？」

//マイク上方

「あ……ああつ、ん、んう、はあ……

あつ……▼

んふ……はあ、あつ、んんつ、んう……

んく、んつ……▼

「あ、はあつ、私の身体つて……

こんなふうに悦ぶのね……▼

ああ、つ、ん……

んう、ん、んくつ……あ：

はあ、ん、んんつ▼

「はあ、私のえつちな声……

あ、あつ、あつ……

温室の薔薇たちに、

聞かれちゃつてるわ……▼

ん、んくつ、あ、あつ……

んつ、んふ……んつ、あ、あつ……

はあ、あつ、ああつ▼

「はあ、あつ、んんつ……

腰の動かし方も、わかつてきたわ……

あ、あつ、んつ……こうかしら……▼

ん、んくつ……んんつ……▼」

「あ、あつ……ん、はあつ、あつ……

ん、んんつ▼

一番奥で……あ、あつ……

おちんちん、ぐりぐりつてして……

ん、んつ、あ、あつ、はあ……

気持ち、いいつ……▼

はあ、奥、好きだわ……▼

あなたも、気持ちいい……?」

## //マイク上方

「はあ……確かに……気持ちいいと、

私のおまんこ、

ぎゅって締まってるわね……

あなたのおちんちん、

ぎゅって抱きしめてる感じがする……

これが、気持ちいいの？

ふうん……いいこと聞いちやつたわ。

私が気持ちいいと……

あなたは気持ちよくなつちやうのね」

「じゃあ……もっと、

気持ちいいところ探しながら、

動いちやう……▼

「あ、あつ……んつ……

はあ、あつ……腰を……

前後に動かしたり……▼

あ、あつ……ひう……

あつ、はあ、あつ、んんつ……

はあ、動き方、変えると……

ん、んんつ、あなたのおちんちん、はあ、

いろいろなところ、当たつて……▼

あ。あつ、んふ、はあ……

あつ、んんつ▼

ひう、うつつ、あ、ああつ、

はあつ、あつ▼ ん、んんつ▼

## //マイク上方

「はあ、あなたの赤ちゃん、んつ、

気持ち、いいつ……▼

はあ、動くたびに、あ、あつ、

どんどん……んんつ……、

あなたの赤ちゃんが、可愛くて、

どんどん好きになつちやうつ……▼

はあ、ん、んくつ、あ、あつ……▼

はああつ、ん、んくつ、ん、はあ、あつ、

んんつ▼

あ、ああつ、ん、んふ……

あなたのお赤ちゃん……

好き、好きつ、あ、あつ、あつ……▼

「はあ、あなたも……

私とこんなふうに肌を重ねると……

気持ちが、変わつてくる……?」

「私のこと……どんどん好きになつちやう?

ふふ、じやあ……

いっぱい好きつて言つてあげるから、

あなたも私のこと、

好きつていっぱい言つてね」

「はあ、あつ、ああつ、好き、んつ、

好きつ……あ、あつ、好き、好きツ、

んんつ、は、ああつ、身体、どんどん、

んんつ、はあ、熱く、なつちやうつ▼

好き、好きつ、あ、あつ、好き、んんつ、

あ、好き! はあ、あつ、ああつ▼

んんつ、はあ、あああつ、好き、んくつ、

んつ、あつ、はあつ▼

んつ▼ んくつ、う、うううううつ、ん、

あ、はああつ▼

//マイク上方

「好き、好きつ、ん、んう、あ、はあつ、  
好き、んくつ、んんつ▼  
はああつ▼ おまんこ、あ、あつ、  
いっぽい、あなたのおちんちん、  
抱きしめちゃうつ……▼」

「はあ、あつ、んう、あつ、ああつ▼  
はあ、嬉しい、もつと、言つて?  
あなたのかきつて言葉、もつと、  
聞かせてつ……!  
あつ、ああつ、はあ、好き、私も、  
好きつ、あ、あつ▼  
んつ、好き、好きい!  
はあ、あつ、ん、んんんつ、う、あつ、  
はあ、あつ、ん、んくつ、んんつ……▼  
好きツ、あ、ああつ▼」

「はあ、あつ、イキたい、のつ?  
ん、んんつ……」

★腰止め

「はあ、あつ……まだ……だーめ……▼  
もつと我慢して、もう無理つてなるまで、  
出しちゃだめ……▼」

「あなたの我慢している可愛い顔、  
もつと見せて?」

## //マイク上方

「あ、あつ……ん、んう、はあ、あつ……  
そう、そうよ……つ、可愛い……  
好き……あ、あつ……  
あなたのその、

我慢している可愛い顔……  
堪らなく、好きつ▼

あなたの顔見ながら、  
もっと興奮しちやうつ▼

あ、あつ▼ はあ、あつ、ああつ……  
「はあ、あなたの顔、もっと間近で見せて？」

★対面座位に変更、起き上がり  
//マイクを元の高さに戻します

「はあ、あつ……んつ……  
ぎゅつ……▼ んふ……

はあ、あなたの身体……  
結構がつしりしてゐるのね……  
ん、んう、あ、あつ……  
「

## //正面間近

「……はあ、あつ、んんつ、んくつ……  
あ、あつ、ああつ……はあ、あつ……  
はあ、さつきと当たるところ、  
変わつて……、あ、あつ……  
んんつ……▼」

## //正面間近

「あ、あつ……んんつ！」

んう、あ、あつ……▼

はあ、好き、好きつ……ん、はあ……

あなたの顔が、間近にあつて……

どきどきしちやう……

あ、あつ、はあつ、ん……

んくつ、ん、んんつ▼

ん、んんつ、あ、私も……

おかしく、なつちやいそ、う……

あ、はあつ……

でも、我慢……するわ……

つ、う、ああつ、

まだ、あなたと、もつとつ……

あ、あつ、んんつ▼

はあ、あつ、ああつ▼

## ●端ぎ・中

「はあ、あつ、我慢、するのも……  
気持ちいいわ……▼

あ、あつ……んんつ、んくつ、あ、  
あつ……▼

あなたも……余裕ない顔、可愛い。はあ、  
好き……好きよ……▼

はあ、私も……あ、あつ、  
誰にも見せたことのない顔、

きつと、してるわね……

あ、あつ……はあ、あつ、あつ……▼  
ん、んんつ、んくつ……あ、あつ……  
やあ、あつ、感じ、ちやうつ、ん、  
んんつ、あ、あつ▼

## ●喘ぎ・中

//右耳元で

「はあ、もう、我慢、できないの……っ？  
じやあ……一緒に、最後まで……  
気持ちよくなりましよう……？」

女性がすつごく気持ちよくなつちやうの、  
イクつて言うんでしよう？

それ……あなたに教えて欲しい……▼

//正面間近

「あつ、ああつ、ん、んくつ、あ、  
あつ、ああつ▼  
はあ、あつ、あつ、んんつ、んく、んつ、  
あ、あつ、あつ、はあつ▼」

「はあつ、だめ、あ、あつ、気持ち、いいつ、  
ん、んくつ、あ、あつ、ああつ▼  
はああつ、もう、あ、あつ、んんつ、  
んく……あ、あつ、んんつ▼  
はああ、あつ、あつ、気持ち、いいつ、  
気持ち、いいつ、ああつ、あつ▼」

「はあ、あつ、あなたも、  
出ちやう、のつ……？」

「あ、あつ、ああつ……▼  
ん、んんつ、精液、私のおまんこに、  
びゅつびゅつって、出しちやう、のつ？」

//正面間近

「あ、あつ……」

はああつ▼ 子宮が……疼いちやうつ、

あ、あつ▼

はあ、あつ、私の、子宮が、  
あつ、ああつ、あなたの精液、  
欲しがつてるつ！ あ、ああつ、  
ああつ▼

ああつ▼

●喘ぎ・激しく

「ちようだいつ、あ、あつ、あなたのつ、  
精液つ、あああつ、はあつ、あつ、  
私の子宮に、あああつ、注いでえ！  
ひうつ、あ、あつ、はあつ、ん、あ、  
あつ、ふあああつ！」

●喘ぎ・激しく

「はあ、あつ、もう、あ、限界つ……  
あ、ああつ、  
おかしくなるつ、イッちや……うつ、あ、  
あつ、ああつ▼イッちや、うつ、  
イッちやう、イッちやうつ！！！」

「はあ、あああああつ、あつ、  
んんんつ……！  
あつ、あああつ、ああつ！」

//演技・絶頂・余韻長めに

「あああああああああああああああつつつ……！」

//正面から左耳元へ移動しながら囁きます

「……はあ……ん……んう……」

あ、はああ……あ……あつ……

出てる……ん……あ……ドクドク……

注がれちゃつてる……▼

んふ……はあ……あ……」

「……ふふ……気持ちよかつた……▼

あなたのおちんちんも、

すごく頑張つてくれたわね……▼

……大好き……▼

## ■ ト ラ ッ ク 7 付き合つてあげてもいいけど

//正面遠くから正面へ移動しながら話します

//演技・電話風

「ええ……ありがとう。待つてるわね」

//正面遠くから正面へ移動しながら話します

「今、学園の玄関についたみたい。今から温室に制服の替え、届けてくれるって」

「ほら、あなたも……

タオルでもかぶつておきなさい？」

そんな恰好で出迎えたら、誤解されるでしよう？」

「…………

ねえ……あなた、さつき、私のこと好きって、言つたわよね？もちろん、私も言つたけれど……」

「それで……それだけ？」

「……これだけのことしたのに、

責任取らないつもりなの？」

「言わなきやいけないこと、あるわよね？」

//間

「……よくできました。

……そうね。あなたがどうしてもつて言つたら……付き合つてもいいけど

「…………」

//正面で話します

「……冗談よ。

好きだって、言つたでしょ？

それとも、まだ足りないかしら？

あなたがまだ足りないって言うなら……

いくらでも、好きって言つてあげるわ」

//正面から右耳元へ移動しながら囁きます

「大好きよ。

あなたが可愛くて、

絶対に手放したくない。

これから、もっともっと

私にふさわしい男になれるようになら……

先輩として、恋人として、

いっぱい指導してあげるわ」

//右耳元から正面間近へ移動しながら話します

「……ふふ、可愛い。

あなたの顔見るとすぐ癒されるわ。

これから、よろしくね」

## トラック2 使用

## ・耳舐め左・右

ん……んちゅつ、ちゅう……ちゅつ、  
 ちゅる……ちゅば、ちゅつ、じゅる、  
 ちゅつ、ちゅう……ちゅ、ちゅば、  
 ちゅつ、ちゅるつ、ちゅ、ん……  
 ちゅつ……

## トラック3 使用

## ・指舐め

ちゅつ、ちゅう……ちゅつ……んちゅつ、  
 ちゅう……ちゅるつ、ちゅつ、んく……  
 ちゅう……ちゅ、はあ……ん、じゅる、  
 ちゅつ……

## トラック6 使用

## ・喘ぎ・中

あ、んんつ、んう……はあ、あつ、あつ、  
 ん、んんつ▼ はあ、あつ、あんつ、  
 んくつ……はあ、あつ、あつ、ああつ、  
 ん、んう、はあ、あつ、あつ▼

## ・喘ぎ・激しく

ああ、あつ、んあ、あつ、ああつ▼  
 あつ、ああつ、ん、んくつ、あ、あつ、  
 ああつ、あつ、ああつ▼  
 はあ、あつ、う、んんつ、あ、ああつ、  
 はあ、あつ、ああつ▼